機材導入の基本的考え方

本ホワイトペーパーはこれから社内で動画内製化をはじめられる方が、作成する必要のある企画書や稟議書を書きやすくするために作成しました。「機材導入の基本的な考え方」と「企画の考え方」はそれぞれ、企画書や稟議書の番号にリンクして作成しています。企画書、稟議書の作成において各項目の記入に迷う場合は、同じ番号のホワイトペーパーの説明をご覧いただき書類作成の助けにしていただければ幸いです。

INDEX

01 カメラ

1. スマートフォンが向いている撮影とメリットデメリット …… 01P
2. アクションカメラが向いている撮影とメリットデメリット …… 01P
3. ビデオカメラが向いている撮影とメリットデメリット …… 01P
4. 一眼レフカメラが向いている撮影とメリットデメリット …… 01P

02 三　脚

1. 雲台の種類　①自由雲台　②3way雲台　③ビデオ雲台 …… 02P
2. 三脚の選び方　①使いやすさ　②安定性　③持ち運びやすさ …… 02P
3. その他の三脚　①一脚　②ジンバル/スタビライザー　③ミニ三脚　④フレキシブルタイプ …… 03P

03 照　明

1. 照明の種類　①デイライトタイプ　②Bi-Colorタイプ …… 04P
2. 単位と明るさについて　①演色性（CRI）　②単位　③照明の明るさ …… 04P

04 マイク

1. マイクの指向性　①単一指向性　②全指向性 …… 05P
2. マイクの種類　①ワイヤレスマイク …… 05P
   ②ガンマイク　③コンデンサーマイク　④ダイナミックマイク …… 06P

8）撮影時に必要な機材・商品

GUIDE 01
カメラ

スマートフォン

メリット

■初心者の方でも
日常的に使っているので
使い慣れている
■気軽に撮影ができる
■SNSへアップロード

デメリット

■ボケ感の表現が苦手
■デジタルズームなので
ズームすると
画質が劣化しやすい
■暗所撮影が苦手
■長時間の撮影に向いていない

使用例

■ショート動画　■自撮り撮影
■簡単な記録動画
■インタビュー動画
■ロケハンでイメージ撮影
（動画コンテ）

**手軽さを
重視する場合や
サブカメラ的な
使い方をする
場合におすすめ！**

アクションカメラ

メリット

■手ぶれ補正がかなり優れている
■かなり広角で撮影することが可能
■小型なものが多いので持ち運びが便利
■壊れにくいので、
通常のカメラでは撮影の
難しい迫力のある映像が
撮れます

デメリット

■ボケ感を出せない
■ズームが柔軟にできない
■暗所撮影が苦手
■タッチパネルが小さく
操作がしにくい

使用例

■アクティブな撮影
スポーツやキャンプ、釣り
■記録動画　■車載動画
■水中撮影　■主観撮影

**アクティブなシーンや
広い画角で
たくさんの情報を
撮影したい場合に
おすすめ！**

ビデオカメラ

メリット

■バッテリー容量が大きく充電しながら
撮影できるので長時間撮影に向いている
■手ぶれ補正が優れている
■ズームが得意で遠くからの撮影にも適している

デメリット

■ボケ感を
表現するのが苦手
■暗所撮影が苦手

使用例

■記録動画　■ロケ撮影
■イベント撮影
■ライブ配信

**屋外でのイベントや
長時間の
撮影をする場合に
おすすめ！**

一眼レフカメラ

メリット

■ボケ感表現が得意
■暗所撮影が得意
■レンズ交換で様々な表現が可能

デメリット

■初心者には設定が難しい
（ピント、絞り、シャッタースピード、ISO感度等）
■手ぶれ補正が弱いため動きのある撮影が苦手
■カメラ、レンズの持ち運びが大変
■長時間撮影に向かない

使用例

■商品紹介動画　■インタビュー動画
■プロモーション動画

**映像の美しさ重視で
色編集などをして映像の
世界観を作り込みたい
場合におすすめ！**

8）撮影時に必要な機材・商品

GUIDE 02
三 脚

雲台の種類

自由雲台

■カメラの方向を自由に調整できるので、初心者の方でも簡単に操作ができます
■シンプルでコンパクトなので、素早くカメラの向きを変えたり、持ち運びに便利です

固定して撮影するのが多い場合や直感的に操作したり
持ち運びを重視したい方におすすめ！

3way雲台

■上下・水平・回転方向の3軸の調整と固定をそれぞれ独立してできる雲台で
カメラの向きを調整するレバーがついているので、操作性が高い

固定した撮影で
構図やカメラの向きを微調整したい人におすすめ！

ビデオ雲台

■ビデオ雲台は動画撮影のために設計されている雲台なので
カメラを上下左右になめらかに動かすことで、不自然な動きのない動画撮影が可能

被写体が動く撮影や
撮影中にカメラの方向を頻繁に変更する人におすすめ！

三脚の選び方

使いやすさ

なめらかなカメラワークで動かすことで、
プロのようなカクツキのない映像を撮影できます。

■カメラを水平、垂直方向に動かすことができる ▸▸▸ 特にビデオ雲台は、なめらかなカメラワークが可能
■水平器がついている ▸▸▸ 水平がとれていると、見ていて違和感のない動画を撮影できる
■三脚の高さを調整できる ▸▸▸ インタビュー動画などで立ち姿を撮影する場合は
演者の目線にカメラの高さを合わせる必要があるので
高さを170cm位まで変えられるものがおすすめ

安定性

三脚が安定していないと、倒れてカメラが破損する可能性があるので、
基本的に頑丈なものを選ぶようにする。

■最大搭載重量がカメラとレンズの重さを合わせた以上
■【目安】最低2kg以上、フルサイズミラーレスや一眼レフは3kg以上、カメラが傾いた状態でも固定できるか
■三脚の素材 ▸▸▸ 固定して撮影するだけであれば、カーボンよりアルミ素材の方がおすすめ
■固定した撮影が多く、構図を微調整したい場合や、撮影中にカメラの向きを変更する人におすすめ

持ち運びやすさ

三脚が重たすぎると、突然のシャッターチャンスを逃したり、
持ち運びが大変になるので、自分の撮影スタイルに合わせた重量/長さを選択する

■三脚の素材 ▸▸▸ カーボンは軽く、振動吸収に優れているが、値段が割高
▸▸▸ アルミは強度が強く、値段もお手頃だが、カーボンより重たい
■三脚をたたんだ時のサイズはどうか

8）撮影時に必要な機材・商品

GUIDE 02
三 脚

その他の三脚

一脚

■基本的にカメラを固定しにくいシーンで
手持ち撮影のサポートとして使用します
■通常の手持ち撮影よりも手ブレを軽減でき
安定した映像を撮影することができます
■三脚ほど邪魔にならず
持ち運びや設置も簡単なので
手軽に使用することができます

三脚を設置しにくい場所（人が多い、足場が不安定等）の手持ち撮影時の手ブレを抑えたい場合はおすすめ！

ジンバル / スタビライザー

■カメラ持って歩いたりする時に
手ブレを防ぐので
安定した映像が撮影できます

移動する撮影が多く手ブレが気になる方はおすすめ！

ミニ三脚

スマホ、GoPro向け

■ストレートタイプ

自撮りの撮影や卓上にカメラを置いて撮影することが多い人におすすめ！

フレキシブルタイプ

設置の自由度が高いので足場が岩場や段差で不安定な場所で撮影する場合におすすめ！

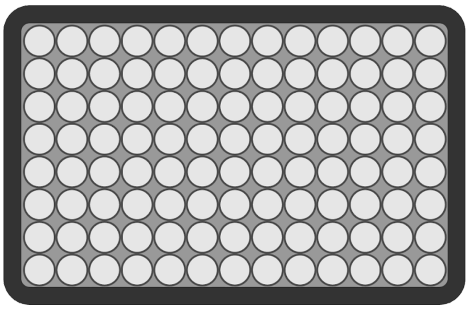
8）撮影時に必要な機材・商品

GUIDE 03
照 明

照明の種類

デイライトタイプ

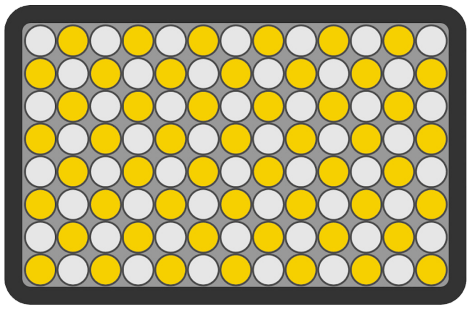
■全て白い電球なので太陽光に近い
■900個LEDがついている場合
900個全てが白色に光るので明るい
■照明本体での色の調光はできない
■カラーフィルターを用いることで調光可能



**室内のみの撮影や
室内全体を明るく見せたい場合は
おすすめ！**

Bi-Colorタイプ

■オレンジっぽい電球と
白の電球の両方がついているので調光可能
■900個LEDがついている場合
450個は白色で、残りの450個はオレンジ色に光るので
デイライトタイプと比べて明るさが半減



**外撮影で時間表現を行う場合や
電球色の照明の下で
撮影する場合はおすすめ！**

単位と明るさについて

演色性（CRI）

■演色性とは商品を照明で照らした時に
対象の見え方が自然光に近いかどうかを表す数値
■演色性（CRI）は0～100の範囲で表され
95以上の照明は撮影照明として適しています

単 位

■ルーメン（lm）
光源から出る光の量
■ルクス（lx）
光源から照らされる面の明るさ

照明の明るさ

■2～3m離れて1,000lx確保できる照明は動画撮影に向いている
（ソーシャルディスタンスを確保して2人の対談動画を収録する場合は、2m離れて3,000lx が推奨）
■照度の目安がない場合は出力（w）ワット数に注目。電力（W）=電圧（V）×電流（A）
（人物を動画撮影する場合は30W以上あれば明るく撮影できる）

8）撮影時に必要な機材・商品

GUIDE 04
マイク

マイクの指向性

単一指向性

特定の方向から入る
音のみを収録

メリット

■ノイズが多い環境でも使用できる
■特定の指向性から外れると
音がかなり小さくなる

デメリット

■大人数での撮影は向かない

**インタビュー動画やナレーションなど
特定の人物の声、特定の方向の音を
録音したい場合はおすすめ！**

全指向性

マイクの向きや角度に関係なく
周囲の音（360度）を全て収録

メリット

■マイクに向かって話さなくても
周囲の音が拾える
■突然鳴った音もしっかり収録できる

デメリット

■雑音の多い環境で使用すると
収録したい音声と
周囲のノイズが混り聞こえにくい

**大人数での撮影や
マイクの向きを変えられない
場合はおすすめ！**

マイクの種類

**移動伴う少人数での撮影や、話者の音声を
しっかり収録したい場合におすすめ！**

ワイヤレスマイク

送信機と受信器の2つがセットで
送信機は話者、受信器はカメラに接続します
送信機にラベリアマイク(小型マイク等)を
つけることで音の収録が可能になります

使用例

■ナレーション　■歌　■会話
■インタビュー　■ライブ配信　■ロケ

メリット

■口元付近にマイクを装着でき、クリアに収録可能
■動きながらの撮影や収録が可能
■両手がフリーの状態なので、作業がしやすい

デメリット

■マイクのバッテリーを充電したり
残量を気にしないといけない
■同時使用に限りがある

※マイクケーブルが無い

8）撮影時に必要な機材・商品

GUIDE 04
マイク

大人数での撮影で全員の声を収録したい場合や、被写体にマイクをつけるのがふさわしくない場合におすすめ！

ガンマイク

棒状で、一眼レフ等のカメラに装着します
ウィンドジャマー（風除け）やブームポール（音源にマイクを近づけ、映らないようにする機材）をつけて収録することも可能

使用例
■室内での対談　■インタビュー　■記録
■大人数のロケ　■スポーツ　■イベント

メリット
■特定の方向の音声を収録するのに優れている
■周囲がうるさい場所でも特定の音声のノイズを軽減してピンポイントで収録できる
■画角にピンマイク等が映らない　■初心者向け

デメリット
■音を拾う範囲が広い分ノイズも入りやすい
■長時間撮影位の場合、大きいガンマイクは必要以上に疲れる

ナレーションやレコーディングなど高音質で収録したい場合はおすすめ！

コンデンサーマイク

通常のマイクとは異なりファンタム電源（コンデンサーマイクに必須の電源）が必要ですが、感度が高く高音質の収録が可能です

使用例
■ナレーション　■レコーディング
■ASMRなど

メリット
■感度が高いので、繊細な音も綺麗に収録できる
■幅広い周波数の音域を拾うので音の表現力が豊か

デメリット
■音を拾いすぎるのでノイズを拾いやすい（呼吸音等）
■耐久性が弱い（特に湿気に弱い）　■比較的高価
■場合によっては、マイクスタンドや呼吸音などを軽減するためのポップガードが必要なこともある

コストを抑えたい場合や手軽に使いたい時におすすめ！

ダイナミックマイク

コンデンサーマイクと違い電源が必要なくスピーカー等にコードを差し込むだけで使用できるので初心者でも扱いやすい
感度は低いが、頑丈で価格も比較的安価

使用例
■ライブ配信　■ナレーション
■インタビューなど

メリット
■振動や衝撃に強い　■湿度や温度変化に強い
■感度が低いので、ノイズを拾いにくい
■ハウリングしにくい

デメリット
■マイクから離れて主音声が小さくなった場合普通に聞こえるくらいまで音量を上げるとノイズが目立ってしまう
■高音域や繊細な音を拾うのが苦手